

発生予察情報

特殊報第2号

平成20年11月14日
秋田県病虫害防除所

日本なしでのヒメボクトウによる被害の発生について

1. 病虫害名：ヒメボクトウ *Cossus insularis* (Staudinger)
2. 発生作物：日本なし
3. 発生地域 男鹿市
4. 発生確認の経過

平成20年4月に男鹿市のなし園において園主から枝枯れ症状の相談があった。同年5月に調査したところ、枝幹部から虫糞、木屑の排出と樹液の滲出が見られ、その先端部位の衰弱枯死症状が見られた。被害部位を解体したところ体長20～40mmの赤紫色をした芋虫状の幼虫が多数穿孔食害していた。

被害状況および幼虫の形態からボクトウガの一種であると考えられたため、被害部位からの羽化成虫を独立行政法人農業環境技術研究所主任研究員の吉松慎一氏に同定を依頼した結果、チョウ目ボクトウガ科のヒメボクトウ *Cossus insularis* (Staudinger) であることが判明した。また被害が確認された園地にヒメボクトウ合成性フェロモントラップを設置したところ、7月中下旬に多数の誘殺が確認された。

被害調査を実施したところ、男鹿市のなし園で広く寄生が確認された。なお、本種によるなしへの被害は平成17年に徳島県で初めて報告され、その後、一部の県で極僅かに被害が確認されている。東北のなしでの被害は初確認である。



ヒメボクトウの幼虫



ヒメボクトウの成虫

5. 形態および生態

卵は卵塊で粗皮部に産み付けられる。

幼虫は赤紫色をした芋虫状で、大きいもので約40mmになる。幼虫で越冬し、孵化してから成虫になるまで数年を要する。集団で穿孔食害し、枝幹部に直径約5～10mmの孔をあけ、そこから虫糞と木屑を排出する。

成虫は開長約35mm、全体に灰褐色で前翅には黒色の筋状の模様が見られる。平成20年の本県での合成性フェロモントラップへの誘殺は7月1半旬から確認され、7月5半旬を誘殺盛期とする一山型の誘殺消長となった。

6. 被害の特徴

5月中旬頃から枝幹の被害部位で虫糞と木屑の排出、そして樹液の滲出が見られ、高温時には発酵臭がする。被害の著しい部位では樹液と排出物で樹皮表面の汚れが激しく、複数の孔が見られる。また被害部位を解体すると木質部の中心まで縦横に穿孔食害跡が見られる。

被害部位は主枝・亜主枝で多く、特に枝幹の分岐部周辺が多い。また老木で多く、品種別では幸水で多く見られる。

被害部位より先の枝幹は衰弱し、数年で枯死するため、生産性の低下が大きい。

なお、地面に落ちた木屑を目印にすると、被害部位を容易に見ることができる。



木屑と虫糞の排出と樹液の滲出孔



被害部位の著しい汚れ

7. 寄主植物

不明な点が多いが、ポプラやヤナギ類と考えられている。

8. 防除対策

- (1) 枝幹の被害部位は幼虫の穿孔部位ごとせん去し、焼却処分する。
- (2) 樹勢の低下が被害を助長しているおそれがあるので、樹勢の維持、強化に務める。
- (3) なしでヒメボクトウに登録のある防除剤は生物農薬のスターネマ・カーポカプサエ剤（商品名：バイオセーフ）がある。
- (4) 上記防除剤を使用する際は指導機関の指導を受ける。



食害穿孔跡



被害により枯死した枝



被害部から落ちた木屑

【問い合わせ先】

秋 田 県 病 害 虫 防 除 所 0 1 8 (8 6 0) 3 4 2 1

秋田県農林水産技術センター果樹試験場

天王分場班 0 1 8 (8 7 8) 2 2 5 1

掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>